

生涯学習だより

最終号

～かみしほろの健やかな育ち～

年間テーマ 「意外と知らない？みんなの学び」

～1年間のふりかえり座談会～

〈高橋（教育委員会）〉今年度より、編集方法を変えました。昨年は、自らの思いを生涯学習だよりとして、町内に発信していましたが、今年度は町内で活躍する団体の紹介とその思いを、生涯学習だよりとして発行してきました。つ目のお題として、まずは、年を通して、情報委員として活動してみてどういった印象を受けたか話してみましよう。

〈杉森委員〉私は、今年度唯一、昨年度からの引き継ぎメンバーで委員をやらせていただきました。まず思ったことは、昨年度までと比べて、今年度の生涯学習だよりは、読み手にとって、見やすくなったのではないかと思えました。昨年度までは字数が多かった印象があるため、文字慣れしていない方にとっては、写真をたくさん使ったり、文字を少なくした方が、伝わりやすくなったのではないかと率直な感想として思いました。

〈楠委員長〉今年度初めて、情報委員として活動をしてみて、初めて知ることが多かった。特に、広報などのサークル紹介には載っていないような団体を取材させていた。これまでの自分が知っているサークルや団体と比べて、今回取材した方々は、本当に自分たちが好きで集まっているんだということが伝わってきた。

その分、『会への思い入れの強さ』をとても感じた。なあなあではなく自分達で『こういうことをしたい！』という「活動意欲」が感じられた。こういった活動は、特にこれからも続けていって欲しいし、今回、生涯学習

だよりで紹介できたことは、私たちにとっても一つの団体支援の形として貢献できたのではないかと思った。

〈津守委員〉今年度からの、団体紹介の記事は、『元気があるな！しっかり活動しているな！』という事が第一印象として伝わるような構成だった。あと、実際に取材に行ったとき、代表の方とお話する機会が多かった。そこで、しっかりと考えた考え方や、団体設立の背景に触れ、自分としても勉強になることが多かった。現在は、自らも取材した団体に所属させていただいていて充実した活動ができています。今回の活動がなければ知ることがなかった団体と活動を通して出会いがあったことは嬉しい。

〈木村委員〉普段上土幌で生活しているが、町内で活躍している団体がこんなにもたくさんあるなんて知らなかった。今回、情報委員として活動したからこそ興味が湧き、他の方が取材しにいったのを見て、もっとたくさん団体の紹介を見てみたいと率直に思えるような内容だった。

〈高橋（教育委員会）〉実際に情報委員の立場として取材に行つて気づいたことはどういったことでしょうか。



〈黒沼委員〉 自分自身、今回の取材団体だった青年会に属していた経験があるため、活動の流れというのは知っていた。青年層の活動でいえば、きつと今、上土幌町には若い人が増えてきている。他市町村から 人で来て不安に思っている人は少なくないはず。特に青年会には、同世代の横のつながりを作ってあげられるような活動をしていって欲しいと思った。そのきっかけづくりを私達のような立場の人が支援していければいいなと思った。例えば、広報を使って呼びかけるなども 一つの方法。来年の情報委員は、ただ発信するだけではなく、その先の支援もできれば更に良い活動になると感じた。

〈小椋委員〉 初めに【一股楽団】を取材にいったとき、自らの生涯学習を町で続けられることはとてもすごいことだと思った。趣味があっても 人じゃなかなか続けるのは難しい。仲間と集ってできること自体が素晴らしいし、仲間を増やしていつていることは更に素晴らしいことだと思った。あとは、【ぼんぼろ】さんを取材した記事を見て、もし自分が子育て世代だったら参加してみたいなと思った。それぐらい魅力的な活動だと感じた。

〈津守委員〉 取材に行かせていただいた団体は、自分よりも前に移住してきた方達が作り上げた団体で、その頃は町の支援も何もない中、自分達で住宅等も探して、やるべきことを探して、移住については時代の流れというか、上土幌コンシェルジュさんの力も大きいとは思いますが、今とはまったく違う状況。当時はまさに「開拓」しているような状態で、今移住してきている方達とは、また違った個性を持っているなど感じました。

〈橋委員長〉 他の取材を見て、団体の方の「横のつながり」がとても大きいと感じた。自主



的に活動をされている方が多いので横のつながりがあるのは当たり前なのかもしれないが、とてもすごいことだと思った。【ぼんぼろ】さんを取材した時に思ったことは、放課後、人によっては学童に行ったりする子がいる中で、工夫しながら活動されて、実際に子ども達と遊んで。こういった団体にこそ町としては補助を出した方がいいんじゃないかと思ったり。今年取材した団体は、来年、団体の情報を発信する機会が少なくなる。もう少し踏み込むのであれば、今回取材した団体も、来年何らかの形で発信していければいいなと思う。

〈木村委員〉 取材してみて率直な感想は、テーマに沿った質問や、文書の構成が難しかったということ。最初は興味が無いことでも読むことによって興味を引き出せるような記事の構成にできなかった。せつかく良い活動をしている団体を取材しているので、大切に意志を伝えていけるような編集をしていければ更に良い情報発信のツールになると感じた。

〈杉森委員〉 取材してみてもではないかもしれないが、元々知っていたり、見たり、聞いたりしたことがある団体には、あるきっかけで行ってみようかなと思うことがあります。個人がやっていることって知る機会が少ない。そういうのってどこで知るのだろう？友達の伝手とか狭い範囲でしか知りえない。もっと広い範囲で知るためにはどうしたらいいんだろうと考えてみました。きつと、団体ではなく、個人単位で探したら素晴らしい活動をしている人ってたくさんいる。



ちなみに今日、元の情報館の場所で行っているクラフトキッチンに行ってきた。行ってみると、知り合いが『こんなおいしそうなパンを作れるんだ』ということに気づかされました。場所に出向いて知ろうとすることが大切。でも、みんながみんな知りたがっているわけではないと思います。多くの情報の発信によって、その人自身にヒットするものがあると思うので、そういった情報の発信の場が生涯学習だよりになれば良いと思います。

〔高橋（教育委員会）〕今年度は団体紹介の形で生涯学習だよりを作成してきましたが、来年度はどのような形で生涯学習だよりを作っていけば良いと思いますか？

〔楠委員長〕取材をする中で、どれだけ伝わったのかなというのが疑問としてあった。この生涯学習だよりを通じて町に知ってもらったり、場所を借りられるようになったり、町の補助が受けられるようになったりすると、さらに活動が広がると思う。

また、どれだけ町で個人的な活動をしているのかわからないが、個人にスポットライトをあてて、その人の生涯学習について発信するという内容も面白いと思う。

〔津守委員〕町内にもいろいろな人はたくさんいる。自然保護活動を本格的にやっている人や、ぬかびら源泉郷のことなら何でも知っているおじいちゃんなど、一人にスポットライトを当てると面白いかも。あとは、情報委員の活動として、おもしろいイベントや面白い人に会いに出向くとか、生の情報がある時に取材をしたら、もっと面白い内容になるんじゃないか。

〔黒沼委員〕たよりの中身としては継続して良いと思う。今後は、活躍している団体と個人を繋げるような取組も大切じゃないか。生涯学習センターわか等

掲示板を設置して、そこに情報を載せておくのも良いかも。町内はもちろん、町外の方にもアプローチできる。過性ではなくて継続的に情報発信をすることができるから、そういったことも情報委員としての活動でできるのではないかな。

〔木村委員〕生涯学習だよりを広報への掲示だけではなく、ネットの掲示もやってみては？今の時代、気になったことはすぐネット検索する人が多いと思う。現に自分はずぐに検索する。情報委員としての新たな活動として考えてみて面白いと思う。

〔高橋（教育委員会）〕最後に一年間をふりかえるとともに来年度の情報委員（生涯学習だより）に向けてのメッセージをお願いします。

〔黒沼委員〕今回、お誘いを受け委員をやらせていただいたいて、委員内にも初めて会う人がいた。色んな事に携わることで、出会いが増えたり、活動を知れたり、全く知らない団体と繋がれたり、広報を使って発信できることを考えたら大事な活動だと思う。個人的には、この役で町の色んなことを知り、新しい繋がりができる良いきっかけとなった。来年度の委員さんにもぜひ、色んなところと繋がってほしい。

〔杉森委員〕一人でも多くの人が広報を読んでも情報を得るということを目的の一つにするのであれば、委員の選出については新しい人をどんどんいれるべき。そうしたら、委員をやった新たなことに気づき、引き継いだ後でも、『次の人がどんなことを書いているのかな』って気になってつながっていくのではと思います。



〈津守委員〉生涯学習、町民の活躍といった言葉は正直あまり好きじゃない。生きてる以上、みんな必ず学んでいるものだし、それに対して『生涯学習しましよ』とかというのが好きじゃなくて、自分の好きなこととしていけば良いじゃないかと思う。活躍といわれても、活躍なんかしなくてもその人の人生だから、押し付けなくていいと思う。こうやって横に繋がらなくても、一人で自己研鑽している人はいる。ただ、人間なので、色々悩むこともある、壁にぶつかるともある、自分ひとりじゃ開けない世界観もあるから、すこしでもきっかけとなるよう、近くで活動している人のことを知って、何かの新しい考え方に会おうことによってその人が変われば。個人が変化することのきっかけになればいいかな。なので、活躍につながるのか、そこまで型にとられなくても良い。生涯学習とはなんなのかを委員自身が考えて来年度もやっていければいいのかなと思う。

〈木村委員〉基本的には津守さんとかぶる部分もありますが、今回、生涯学習ということを知って考えた時に、皆さんが活動しているということは、見方を考えると“学び”になるということに気づけた。情報委員になって、こんなにも多くの町民が素晴らしい活動をしていることに気づけたことが何よりも大きな自分の気づき。今年度は委員六人での活動だったが、もっと多くの情報委員がいて、人ひとりのつながりの中から、取材なり、発信なりができると、もっと良い活動になっていくかなと思う。

〈小椋委員〉生涯学習だよりに携わって、町内にはたくさん素晴らしい活動をしている団体・個人がいるという事がわかった。自分たちで新たな活動を起こすことはとてもエネルギーが必要。元氣な人が町内にはたくさんいることを改めて実感させてもらった。委員についても、若い世代から上の世代まで、色んな世代を混ぜることで、得られる情報の幅が広がると思う。来年度の人選は、各世代から選んでいって欲しい。

〈楠委員長〉色んな人の活動を見させてもらって、みんなの思いを文章にさせてもらったことは自分にとって、とても貴重な体験だった。情報委員になって初めて出会った人がいて、色んな考え方を学んで、それだけでも生涯学習かなと思っただし、見方も変わるし、自分の知らないことを知るっていう体験はとても貴重かなと思う。

自分の興味のあることはネットの時代だから簡単に一人でできちゃう。ただ、町内の事は広報をとおしてじゃないと知り得ない情報がある。例えば、自分が所属する「ミ一四駆同好会」でいえば、町内で全然つながらない職種の方々でも『広報を見た』といって何人か参加してくれた。少なからず見てくれてる人はいて、実際に参加してもらえることもあった。町全体に知らなくても少しずつ少しずつつながりが生まれていく場になればと思う。

来年に向けては、全然つながりがない人同士で集まって話した方が面白いんじゃないかと思う。いろんな人と繋がる機会を設けて。

あとは、来年度の委員さんでその時に良いなと思ったことをやっていければいいなと思う。欲を言えば、今年紹介した方々も、もっと知ってほしいという想いがあるので、継続して発信していってほしい。



情報委員の皆さん1年間ありがとうございました。